

学校施設における室内空気質対策事例

市原 英樹・永井 香織・愛甲 寿朗・甲賀 由紀子

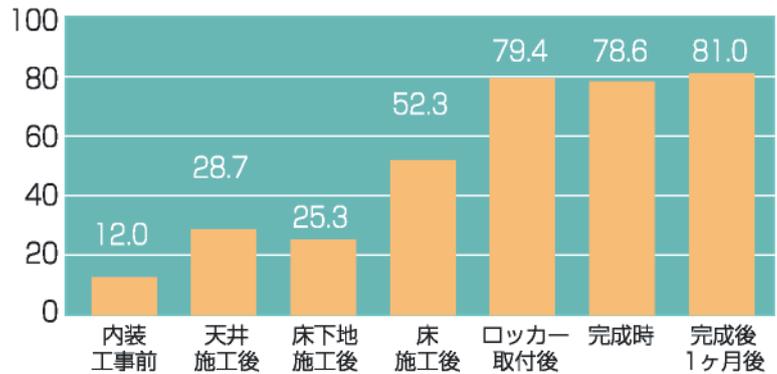
Indoor Air Quality in School Facilities

Hideki Ichihara, Kaori Nagai, Toshirou Aikou and Yukiko Kouga

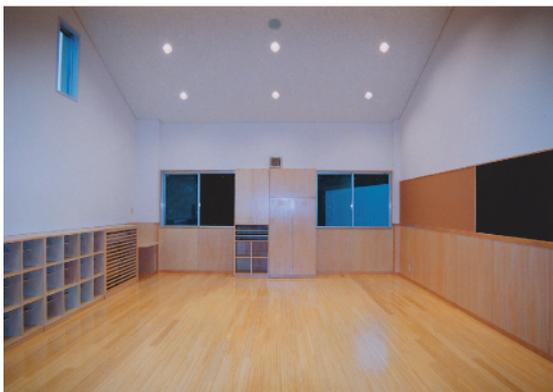
天然材を選定した学校施設



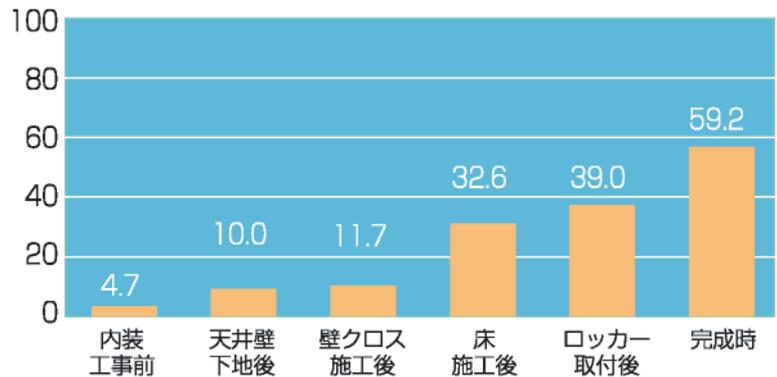
ホルムアルデヒド放散量 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)



一般材を選定した学校施設



ホルムアルデヒド放散量 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)



研究の目的

シックハウス問題は、厚生労働省から「優先的に取り組まれる物質として14種類の物質の指針値」が発表されるなど、ますますホルムアルデヒドやVOC（揮発性有機化合物）の放散には厳しくなっています。厚生労働省は、室内空気質指針値の適用範囲を、住居だけではなくオフィスビル、病院、学校など、あらゆる建物に対して適用するとしています。特に学校施設は、優先的に室内空気質対策を求められることが予想されます。

技術の説明

室内空気質対策は、材料選定、換気計画、施工計画の3種類をバランスよく行う必要があります。材料選定は、化学物質低減で最も重要な内容です。

主な結果

実験結果から材料からの放散量を把握し、十分に選定することで厚生労働省が示す指定物質の濃度を指針値以下にすることができます。また、施工中に多種多様な材料を使用する中で、施工中の濃度を測定することで、発生源を把握することは低減対策の重要なことです。